世界名詩集（全26巻）24　マヤコフスキー　戦争と世界　一五〇〇〇〇〇〇
エセーニン　詩集　セルゲイ・エセーニン
定価　六〇〇円
昭和四十四年九月二十日　初版発行

訳　者　飯田規和　小笠原豊樹　田沢八郎
発行者　下中邦彦　東京都千代田区四番町四番地
発行所　株式会社平凡社　東京都千代田区四番町四番地　郵便番号102　振替東京29639
印　刷　東洋印刷株式会社
製　本　株式会社石津製本所

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

© 株式会社　平凡社　1969

0398-313240-7600

世界名詩集24

# マヤコフスキー

*Vladimir Vladimirovich Mayakovskii*

## 戦争と世界

VOINA I MIR

150000000

# エセーニン

*Sergei Esenin*

## 詩集

STIKHOTVORENIYA

平凡社

装幀　原　弘

# 戦争と世界

V・V・マヤコフスキー

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

プロローグ　5
捧げることば　9
第一部　11
第二部　19
第三部　24
第四部　41
第五部　52

飯田規和訳

# プロローグ

きみたちはけっこうだ。
死人は悪口を言われない。
死んだ人殺しへの
憎しみは消える。
飛び去った魂の罪は
あらたかな清めの水で洗われている。

きみたちはけっこうだ！
だが　ぼくは
隊列をくぐり
砲声をこえて
どうして生ける者への愛をはこぼう？
つまずきでもしたら
この最後の愛の一かけらさえ
永遠(とわ)に煙の淵にしずんでしまう。

もどってきた連中にとって、
何になる、
きみらの悲しみが、
かれらにとって
たわいない詩の縁飾りが何になる?!
連中は
二本の義足をはめて
一日えっちらびっこをひけばそれでいい！

こわいのか！
臆病者め！
殺される！
だが　じっとしていれば、
奴隷よ　まだ五十年は生きられる。
うそだ！
ぼくは知っている、
突撃のラワ[1]のなかでも
ぼくは先頭を行く
てがらにかけても

勇気にかけても。

おお　いったいだれだ、
破滅の時を告げる警鐘を
耳にしながら
雄々しく前へ進み出ようとしないやつは？
みんなか！
だが　ぼくは
この地上で
ただ一人
あすの真理を告げる者。

今日　ぼくは歓喜にむせぶ！
まきちらすことなく、
魂を
送りとどけることができた、
できたのだ。
唯一の人間らしい
声を、
咆吼（ほうこう）のなかで、

金切声(かなきりごえ)のなかで、
今こそあげるのだ。

そのあとで
銃殺するならするがいい、
死刑の柱にしばるならしばれ！
顔色なんか変えるものか！
おのぞみなら
標的がはっきり燃え出るように
ポイント札を
おでこにはりつけようか?!

# 捧げることば

リーリヤに[3]

一九一五年。
十月八日。
これが
ぼくを
一兵卒にまつりあげる
儀式がおこなわれた日付。

「きいてください！
だれだって、
たとえ役に立たない人間だって、
生きねばなりません。
人間を
塹壕や掩蔽壕の墓場へ
生きうめにしてはいけません、



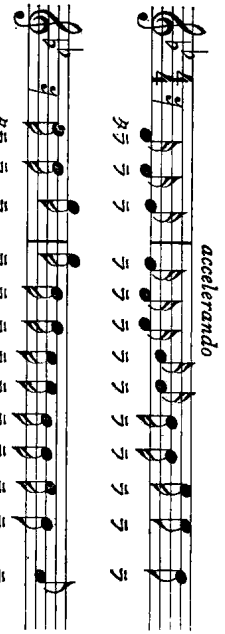
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

いけません、
人殺したち！」

聞き入れられやしない。
六プード[3]もある下士官がプレスのようにおさえつけ、
髪を両耳のつけ根まできれいさっぱりそり落とした。
標的よろしく
ひたいのうえに
兵卒の
十字をはりつけられた。

さあこうなってはぼくも西送り！
てくてく歩きに歩くのだ、
「戦死者名」なる
見出しの下に
八ポ活字の名前を見つけて
おまえの眼が泣きくれるまで。

# 第一部




さて
オーケストラのたいまつにゆらめく
ひのき舞台に
ころがり出ました白い腹。
そら始まった！
千個のレンズでのぞいたようにみるみる大きくなり、
くねくねくねる。
汗があぶらでてかてか光る。
とつぜん

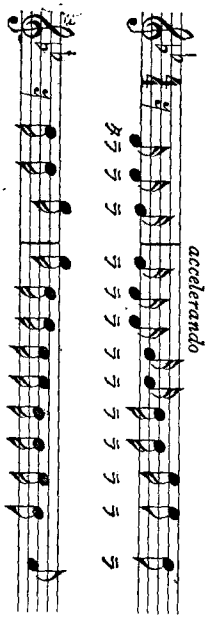
ちらりと見えるおへそをとめて、
こまよろしく廻りおわった。

何だ、これは！
はげ頭がくっついて月になる。
眼は細くなってぎらりとひかる。
砂浜でさえ、
塩っからいよだれをまきちらし、
にたりと笑って家の入歯をむき出した。

廻りおわった。
口という口を、
電流のように
「ブラボー」の叫びがひきつらせる。
ブラボー！
ブラーボー！
ブラーーボー！
ブラーーーボー！
ブラーーーーボー！
いったいだれだ、

何者だ？
このでぶでぶふとって
雄牛づらした群衆は？

詩はおだやかな詩集のなかに
怒りの叫びは押しこめられぬ。
これこそコロンブスの孫たち、
ガリレイの子孫たちが
紙テープの網にかかっていなないている！


accelerando
タラ ラ ラ 

みだらな街ののぼせ上がったピアノ弾き。

右へ、
左へ、
曲って、
ななめに、
野のふところをめかしこみ、
地軸につながれた
でっかいバビロンの
ちっちゃいバビロンの
バビロンの都の
廻転木馬がぐるぐるまわる。

その上には
どぎもをぬくほど
長いビン。
その下には
酔っぱらいの穴にも似た
シャンペングラス。
人間さまは

酔っぱらいのノアよろしく
寝っころがったり、
げすづらさげて吠えたてている！

腹一杯つめこみおわれば、
そのあとは、
夜のとばりにつつまれて、
肉と肉を羽ぶとんのなかに投げだして、
お互いにからみ合っては汗をかき、
ベッドのきしりで町々をふるわせる。

地球は朽ちはてる、
ランプというランプのほのおが
地表を爆破して火ぶくれの山をつくり、
町々の断末魔におののきながら
人びとは死んで行く
石のそばの穴のなかで。

医者たちは
前代未聞のこの大量死亡を究明せんとて、



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com